

J P S  
北九州

報 会  
日 本 郵 趣 協 会  
北 九 州 支 部  
平 成 30 年 6 月 9 日  
第 339 号

新 昭 和

30 銭 五 重 塔

タイプ I

無目打



白紙 灰白紙 灰白紙狭透し 糊付き

単線 12 目打



白紙 灰白紙 灰白紙狭透し

18 × 13 ¼ 目打



白紙 灰白紙 灰白紙狭透し 糊付き 凸版 (国名左書き)

12 × 12 ¼ 目打



白紙 糊付き

ルレット目打

タイプ II

無目打

18 × 13 ¼ 目打



白紙 灰白紙 灰白紙狭透し

提 供 : 橋 本 たねひろ 氏

## 第一次、二次新昭和切手30銭の収集

橋本たねひろ

新昭和切手五重塔30銭は、一種使用切手として昭和21年8月10日無目打、無糊の状態が発行されたが、9月にはルレット目打の秀山堂切手が、10月には目打入り糊なしの切手が、翌年3月には無目打と目打有りに糊付き切手が出現しており、第一次と第二次新昭和が混在する形となっている。

さくら日本切手カタログでは、昭和透かし、同狭透かしの2種があり、無目打無糊で2種、無目打糊有り1種、秀山堂1種、目打有りで5種が採録されており、この9種が基本的な収集であろう。

単片でこれを発展させると、目打違いが単線12、12×12½、13×13½の3種や紙質違いを加えて15種となるが、灰白紙昭和透かしの単線12が難しく、またこれら15種を分類して揃えている業者も少ないため、安価なものでも苦勞すると思われる。

この切手には図案の一部違い（右下枠飾りに小点の有無）で、タイプIとIIに分類されており、単片でも区別できる点で重要である。

タイプIIは4種あるので、計19種となり、そこまで収集するかは好みの問題ともいえるが、一次新昭和1円北斎の富士は、山腹の切れ込みの有無でメインナンバーがそれぞれに与えられており、30銭も将来タイプ別にメインナンバーを与えられるかも知れない。

これ以上となると、銘版付ブロックということになるが、用紙、透かし、刷色で収集するとかなり大変で、金銭面の負担だけでなく、ほぼ不可能かも知れない。

刷色違いには言及しなかったが、はっきり分かる紫と赤紫はできれば分類したいし、定常変種も面白い。

15銭でも述べたように、使用済み収集は、かなり苦勞するはずであり、無目打貼り以外のエンタ収集は困難である。